

平成26年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校(平成27年2月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

・全学年で386通の回答があった。今回は402通のアンケートを配布したので、回収率は96%である。
・生徒の教育活動に対する評価は、全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。
・「授業の内容はよく理解できる。」の項目で肯定的意見は昨年度より3ポイント上昇し85%、「学校全体で部活動は充実している。」は昨年とほぼ同じ3ポイント微減の74%、「毎日の学校生活が楽しい」で、昨年度から4ポイント増の84%となっている。
・進路指導に関わる部分は、上級学年になるに従い評価はよくなっている。しかしながら進路指導(キャリア教育)に関する質問に対しては、他の項目よりも「わからない」と答える生徒の割合が高い。進路指導＝進学指導ととらえがちなが、1年次より中学3年間および卒業後を見通し、さらに計画的に進路指導計画を立てて進めていくことが必要である。

II. 保護者のアンケートより

・全学年で328通の回答があった。今回は402通のアンケートを配布したので、回収率は81.6%で、昨年度より5%上昇した。
・全体的には、昨年度とほぼ同様の値で、肯定的回答の割合が高く、特に、1.学習指導、2.生活指導について、3.学校行事、6.学校運営、7.教職員、11.学校全般については6割～8割の肯定的回答が寄せられている。
・進路指導(キャリア教育)について「子どもの将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。」は6ポイント増の62%、「本校の教員は親身になって進路の相談にのっている」が5ポイント増の58%と増加しているものの、まだ低い値である。「わからない率(E率)」がそれぞれ23%、28%となっていること、下の学年になるほど肯定的な割合が減少していくことから、1年生2年生が望むニーズと教員側の指導内容を一致させていくこと

III. 地域の方のアンケートより

・学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など55名にアンケートを送付し、31名から回答をいただいた。回収率は60.8%である。
・地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答が寄せられている。
・今年度は前年度に比べて回収率が約20%以上上がったものの、「分からない率」20%以上の回答が7項目に増加した。学校での教育活動をいかに地域に発信していくか、情報提供の方法も含め、今後も工夫・改善を行っていくことが課題である。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

「学校の重点目標が明確である」という評価項目では肯定的な評価は、保護者において71%、地域において93%、教職員(「前年度の学校評価を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している」)において100%である。保護者の『わからない率』は昨年度とほぼ同じ20%である。学校の重点目標について、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で保護者に周知していく努力を要する。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目で、保護者の肯定的な割合は65%と昨年度と変わらないが、地域の方の評価は昨年度より大幅減の58%となった。しかしながら、地域の方の評価の『わからない率』が35%と高いことから、否定的評価の割合が増えたというよりも地域と関連する教育活動について周知しきれていないという問題が残る。地域の人材や施設をさらにどのように活用していくか検討・改善していくと同時に、地域と関連する教育活動について保護者・地域に周知していく努力を継続しさらに向上させていくことを望む。
・保護者における学校協議会の項目は肯定的評価が62%に対し、わからないという評価が24%と高く、学校協議会の内容等を地域や保護者へ周知していく必要がある。
・PTA活動に対しては、大変良好な評価を得ている。保護者の学校への協力体制が継続的に行われているものといえる。
・学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目の肯定的評価は、保護者が昨年度とほぼ同じ79%、地域が80%と肯定的評価が高い。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

・概ね良好な評価である。
・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価では、肯定的評価結果の割合は昨年度と比べすべての項目で微増しており、改善がみられるものの、依然『わからない率』が高く、満足できる値とはいえない。
・学習指導においては、生徒の「授業の内容がよく理解できる。」の項目で肯定的評価が85%と引き続き数値目標を超える値となった。学習活動は学校の中心的な活動であり、さらに維持・向上させていく努力をお願いする。
・教科「日本語」の全方位の評価は、肯定的評価結果が昨年度より大幅に減少している。指導体制の改善や研修を進め、日本語の充実について工夫・改善を強力に推進していくことが課題である。
・生活指導においては、全般的に良好な評価である。全方位の評価で「学校のきまりやルールが教職員に共通理解されている」の肯定評価が71%と昨年度より約10%減少している。教職員の入れ替わりの中で、きまりや対応の仕方など細部にわたって確認し、共通理解を図りながら教育活動を進めていく努力をお願いする。
・道徳教育においては、教職員の評価は昨年度よりどの項目も向上している。年間指導計画等を更に生徒の実態に合わせて計画し、今後も継続して改善を図っていくことが重要である。
・学校行事においては、今年度も高い評価である。事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力を今後も願う。
・相談活動においては、昨年同様に評価が高く、生徒・保護者と学校との信頼関係が保たれているといえる。
・部活動においては、教員数・施設面の制約がある中、保護者・生徒の高い評価を得ている。
・先生について、「先生に指導されたことは納得できる」は80%である。否定的評価の15%を減少させていくことが課題である。

IV. 信頼と誇りをもてる学校づくりについて

・概ね良好な評価である。
・校長のリーダーシップのもと(保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である)、教職員が教育活動に励んでいる様子が、今年度もアンケート結果や学校公開授業等を通して見える。
・安全指導や安全管理は適切に行われている。大規模災害時の学校の基本的な対応について更なる改善を行い保護者へ周知していくことが必要である。
・地域アンケートにおいても、学校運営への評価はおおむね良好といえる。

V. 教育環境の整備について

・全方位的な点検・評価の教職員の施設・設備に関する肯定的評価が94%と良好な結果であるのに対して、保護者アンケート「本校の安全性は確保されている」の項目の肯定的評価は54%にとどまっており、教職員の評価結果との乖離が見られる。来年度から2年間は仮設校舎で過ごすことになるが、学校の施設設備の安全性については、今まで以上に周知を徹底していく努力を要する。
・保護者への周知の度合いは、どの項目も昨年度より微増している。さらに教育内容(ソフト面)だけではなく、施設・設備等(ハード面)、様々な内容を保護者へ積極的に情報提供し理解を深める努力を要する。

Ⅵ. 学校生活全般について

・良好な評価である。
・生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」4ポイント微増の84%、「深沢中が好きである」が昨年度と同じ85%、保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」1ポイント増の90%、独自項目「友達と学校で活動することは楽しい」は90%の結果は、生徒・保護者ともに学校生活の充足度はかなり高いといえる。
・生徒アンケート独自項目「時と場合に応じた言葉づかいができて」「思いやりの心をもって行動している」では、学年が上がるごとに肯定的評価が増加している。道徳の授業や学校教育全般を通して、さらに子どもたちの心の教育を推進していくことを望む。

Ⅶ. 数値目標について

・今年度は3項目とも目標値を上回り達成された。
この水準に到達できたことを評価するとともに、継続して指導体制・方法の整備が望まれる。
①授業の内容はよく理解できるとする生徒の割合を75%以上にする <評価結果(生徒 1ー(1) 85%)>(3ポイント増)
②地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す <評価結果(保護者 9ー(2) 80%)>(増減なし)
③部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す <評価結果(生徒 5ー(1) 79%)>(5ポイント増)

Ⅷ. 「学び舎」の目標について(今年度より独自項目生徒アンケート実施)

・学び舎で設定した数値目標の結果「①の自分にはよいところがあると思いますか。」は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。
①自分にはよいところがあると思いますか。 <評価結果 59%>(2ポイント増)
②友達と学校で活動することは楽しいですか。 <評価結果 90%>(増減なし)
③自分が住んでいる地域は好きですか。 <評価結果 84%>(増減なし)

3 全方位的な点検・評価について

Ⅰ. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

・適切に実施されたといえる。

Ⅱ. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

・おおむね適切な内容といえる。
・しかしながら、教職員がわからないとする項目結果がある。本業である自らの教育活動に対して「分からない」とすることの原因を調べ、改善していくことを強く望む。

Ⅲ. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

・報告書並びに説明は、改善方策を含め妥当なものである。

4 学校の課題及び学校への提言

○アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
○地域との連携においては、地域ボランティア活動等、今後も高い評価を維持していくよう、協力関係を深め、生徒が地域の一員としての自覚を持って活躍できるよう取り組み、取り組み状況等を保護者や地域へ積極的に発信していく努力を行うこと。
○情報発信に関して、学年便り等の効果は高いが、ホームページに関して、情報発信のツールとして活用できるようにさらなる改善を強力に行っていくこと。
○学習指導においては、今年度も全般的に大変良好な評価である。生徒アンケート等を実施・分析を行い、次年度以降も、より高い水準を目指す改善努力を行っていくこと。
○道徳においては改善が見られるが、生徒の実態を的確にとらえ、年間計画を立案し、今後も工夫・改善を推進していくこと。
○教科「日本語」においては、今後も共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進め更なる充実を図っていくこと。
○生活指導においては、今年度も改善してきた様子がうかがえる。引き続き今の状態を維持していただきたい。また、一致した指導体制を今後も推進していくこと。
○学校行事においては今年度も生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒に主体的な活動ができるよう促し、より良い行事となることを目指すこと。
○相談活動においては、今後も生徒の心の変化を捉え、早期に対応する体制を進め、常に生徒が安心して学校生活をすごせるようにしていくこと。
○進路指導においては、キャリア教育(進路指導)＝進学指導でなく、生徒一人一人が将来にわたり職業人として生きていく力を身に付けていく指導であることを、今後も生徒・保護者に様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者のニーズにできるだけ応えていく努力をすること。
○部活動等においては、今年度も生徒の生き生きとした活発な活動がみられる。今後も3年間を通した生徒活動の充実を行うこと。
○学校の安全性、安全への配慮等は保たれているといえる。来年度からの大規模校舎改築改善工事を踏まえ、今後も保護者へ様々な機会をとらえて積極的にアピールしていくこと。
○大規模災害の対応について、今後も保護者や地域に周知理解をさらに深めていくこと。
○一人一人の生徒が、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるように、校長の学校経営方針にある、「夢」を生徒に持たせ、自己実現ができる機会を設定・実践し、自己有用感、自己肯定感等を味わう経験を多く持たせるよう、改善・努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。
重点目標の数値を今年度も達成したことは学校の努力の成果であるといえる。「学校生活が楽しい」とする結果が、保護者90%、生徒84%と高い肯定的評価を得られたことは評価できる。その他、今年度改善した項目は、学校の不断の努力の成果と言える。
これはひとえに校長が強力にリーダーシップを発揮し、教職員が一体となって努力してきた結果であるといえる。今後も校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり一人一人の生徒のために最善を尽くしていくことを願う。

平成26年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会			
委員長	井坂 聡		
委員	伊藤 嘉信	(事務局)	
	菅田 輝代志		山村 恵子
	武田 泰子		吉原 宏
	谷岡 美貴		山本 勉
	有馬 利一		黒葛原 範顕